

## 感染者（県内在住大学生）の感染リスクの高い行動例

### 事例 1

- 友人と泊りがけでスキー旅行。その後、親族のお見舞いに行く。

### 事例 2

- 時短要請の直前まで、夜の店でバイト。接客中は、本人・客ともにマスク非着用。換気不徹底で体調確認も行っていない店舗だった。

### 事例 3

- 4月中旬に愛知県内の実家に帰省。その数日後に発熱したが解熱したため、大学に確認のうえ登校（咳は続いていた）。

### 事例 4

- 4月下旬、大学の後輩と名古屋市内に行き、夜の店2軒をハシゴ。
- 名古屋市は、既にまん延防止等重点措置区域に指定されており、午後8時以降の時短要請期間に入っていたが午後10時以降に店を利用。始発で帰宅。

### 事例 5

- 休日に愛知県内で友人と外食・飲酒し宿泊。翌日に教育実習先の学校を訪問（実習先は感染防止対策を徹底）。次の日に、友人宅に宿泊し、飲酒。

### 事例 6

- 同級生と観光名所（御千代保稲荷）に行き、食べ歩き。翌日、友人宅に行く（マスクなし）。

### 事例 7

- 週6日の朝と夕方、40～50人の規模で部活の練習。ミーティング以外はマスク非着用。

### 事例 8

- 友人2人（後にコロナ陽性判明）と自動車内で1～2時間会話。
- その後、既にまん延防止等重点措置区域に指定されていた神奈川県横浜中華街を観光、食べ歩き。

### 事例 9

- 部活の新生生同士で自動車に乗り合わせ、県内の焼肉店、スーパー銭湯を巡る。
- 部活中もマスク非着用、大声を出して活動していた。